

読む

物語の人物像を読み取る(1)

名前

物語では文章の最初の方に、主人公の名前や見た目、性格や考え方などいろいろなことが書かれています。この主人公が**どんな性格なのか？** **何が得意なのか？** **今の様子はどんなだ？** などを分かって読むことはとても大事なことです。

次の文章は、それぞれの物語の最初の部分を抜き出したものです。その中から主人公のことについて書いていることを読み取ってみましょう。

やってみよう

木に白い美しい花がいっぱい咲きました。木は自分のすがたがこんなに美しくなったので、うれしくてたまりません。けれどだれひとり、「美しいなあ」とほめてくれるものがないので、つまらないと思いました。木はめったに人の通らない緑の野原の真ん中にぼつんと立っていたのであります。

木はどこに立っていますか。

[Blank box for answer]

木はなぜうれしくてたまらないのですか。あてはまるものにつけましょう。

- \* 自分のすがたが美しくなったから ( )
- \* 友だちがあいにくしてくれたから ( )

木はだれかにしてほしいことがあります。それはどんなことですか。あてはまるものにつけましょう。

- \* 「さみしくない」と声をかけてほしい。( )
- \* 「美しいね」とほめてほしい。( )

上の部分で出てくる人物は何人ですか。

人 [Blank box for answer]

やってみよう

自分が「木」になっ  
たつもりで読んで  
いくと気持ちも想  
像できるね。



(新美南吉「木の祭り」より)

むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。おじいさんがいつも畑に出て働いていますと、うらの山から「びぎの古だぬきが出てきて、おじいさんがせつかく丹精をしてこえた畑のものを荒らした上に、どんどん石ころや土くれをおじいさんのつしろから投げつけました。おじいさんがおこって追っかけますと、すばやく逃げて行ってしまいます。しばぶくするとまたやって来て、あいかわらずいたずらをしました。

(楠山正雄「かちかち山」より)

おじいさんにとって、古だぬきはどんなたぬきですか。あてはまるものにつけましょう。

- \* やさしい ( )
- \* わるい ( )
- \* えらい ( )

前の問題でそう答えたのはなぜですか。考えのもとになった部分を上の文章から選び、線を引きましょう。

上の文に直接書いてね



## 読む

物語の人物像を読み取る(1)

名前

# こたえ

物語では文章の最初の方に、主人公の名前や見た目、性格や考えなどいろいろなことが書かれています。この主人公が**どんな性格なのか？** **何が得意なのか？** **今の様子はどんなだ？** などを分かって読むことはとても大事なことです。

次の文章は、それぞれの物語の最初の部分を抜き出したものです。その中から主人公のことについて書いていることを読み取ってみましょう。

## やってみよう

木に白い美しい花がいっぱい咲きました。木は自分のすがたがこんなに美しくなったので、うれしくてたまりません。けれどだれひとり、「美しいなあ」とほめてくれるものがないので、つまらないと思いました。木はめったに人の通らない緑の野原の真ん中にぼつんと立っていたのであります。

自分が「木」になっ  
たつもりで読んで  
いくと気持ちも想  
像できるね。



(新美南吉「木の祭り」より)

## やってみよう

むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがありました。おじいさんがいつも畑に出て働いていますと、うしろの山から「びぎの古だぬきが出てきて、おじいさんがせつかく丹精をしておこえた畑のものを荒らした上に、どんどん石ころや土くれをおじいさんのつしろから投げつけました。おじいさんがおこって追っかけますと、すばやく逃げて行ってしまいます。しほはびくびくすすまるとまたやって来て、あいかわらずいたすらをしました。

(楠山正雄「山」より)

木はどこに立っていますか。

**めったに人の通らない緑の野原の真ん中**

木はなぜうれしくてたまらないのですか。あてはまるもの に をつけましょう。

\*自分のすがたが美しくなったから ( )

\*友だちがあいにきてくれたから ( )

木はだれかにしてほしいことがあります。それはどんなことですか。あてはまるもの に をつけましょう。

\*「さみしくない」と声をかけてほしい。 ( )

\*「美しいね」とほめてほしい。 ( )

上の部分で出てくる人物は何人ですか。

3人

おじいさんにとって古だぬきはどんなためきですか。あてはまるもの に をつけましょう。

\*やさしい ( ) \*わるい ( ) \*えらい ( )

前の問題でそう答えたのはなぜですか。考えのもとになった部分を上の文章から選び、線を引きましょう。

上の文に直接書いてね



読む

物語の人物像を読み取る(2)

名前

次の文章を読み、以下の問いに答えましょう。

ゴーシユは町の活動写真館でセロを弾く係りでした。けれども、あんまり上手でないという評判でした。上手でないどころではなく実は仲間の楽手のなかではいちばん下手でしたから、いつでも楽長にいじめられるのです。

ひるすぎ、みんなは楽屋にまるくならんで、今度の町の音楽会へ出す第六交響曲の練習をしていました。

トランペットは一生けん命歌っています。

ヴァイオリンも二いる風のように鳴っています。

クラリネットもボーボーとそれに手伝っています。

ゴーシユも口をりんと結んで眼を皿のようにして楽譜を見つめながらもつ一心に弾いています。

にわかにはたつと楽長が両手を鳴らしました。みんなぴたりと曲をやめてしんとしました。楽長がどなりました。

「セロがおくれた。トオテテ テテテイ、ここからやり直し。はいっ。」

みんなは今の所の少し前の所からやり直しました。ゴーシユは顔を真っ赤にして額に汗を出しながら、

やっといま言われたところを通りました。ほっと安心しながら、つづけて弾いていますと楽長がまた手をぱつとうちました。



活動写真館…映画館のこと

セロ…チェロという楽器

楽手…楽器を奏でる人

宮沢賢治「セロ弾きのゴーシユ」「より

物語文では、登場する人物について外見の様子や性格、考え方などの「人物像」を正しくとらえておくことが大切です。

やってみよう



【1】ゴーシユはこの楽団で何をしていますか。あてはまるもの に をつけましょう。

- \*セロを弾く係 ( ) ( )
- \*トランペットを吹く係 ( ) ( )
- \*合奏団の楽長 ( ) ( )

【2】ゴーシユの演奏の評判はどんなものですか。九文字で抜き出しましょう。

Blank box for answer to question 2.

【3】ゴーシユは楽長にいつもいじめられていますが、それはなぜですか。あてはまるもの に をつけましょう。

- \*いつも遅刻ばかりしてくるから ( ) ( )
- \*演奏が一番下手だから ( ) ( )
- \*一生けん命で楽長を見ていないから ( ) ( )

【4】線から、ゴーシユの様子を書き抜きましょう。

Blank box for answer to question 4, labeled '口を'.

Blank box for answer to question 4, labeled '眼を'.

Blank box for answer to question 4, labeled '楽譜を'.

Blank box for answer to question 4, labeled 'もつ'.

に弾いています。

## 読む

### 物語の人物像を読み取る(2)

名前

# こたえと説明

次の文章を読み、以下の問いに答えましょう。

ゴーシユは町の活動写真館でセロを弾く係りでした。けれどもあんまり上手でないという評判でした。上手でないどころではなく実は仲間の楽手のなかではいちばん下手でしたから、いつでも楽長にいじめられるのです。

ひるすぎ、みんなは楽屋にまるくならんで、今度の町の音楽会へ出す第六交響曲の練習をしていました。トランペットは一生けん命歌っています。

ヴァイオリンも二いる風のように鳴っています。クラリネットもボーボーとそれに手伝っています。

ゴーシユも口をりんと結んで眼を皿のようにして楽譜を見つめながらもつ一心に弾いています。

にわかにはたつと楽長が両手を鳴らしました。みんなぴたりと曲をやめてしんとしました。楽長がどなりました。

「セロがおくれた。トオテテ テテテイ、ここからやり直し。はいっ。」

みんなは今の所の少し前の所からやり直しました。ゴーシユは顔を真っ赤にして額に汗を出しながら、

やっといま言われたところを通りました。ほっと安心しながら、つづけて弾いていますと楽長がまた手をぱつとうちました。



活動写真館…映画館のこと

セロ…チェロという楽器

楽手…楽器を奏でる人

宮沢賢治「セロ弾きのゴーシユ」「より

物語文では、登場する人物について外見の**様子や性格、考え方**などの「人物像」を正しくとらえておくことが大切です。

## やってみよう



【1】ゴーシユは何をしている人ですか。  
あてはまるもの に つけましょう。

\*セロを弾く係

( )

\*トランペットを吹く係

( )

\*合奏団の楽長

( )

【2】ゴーシユの演奏の評判はどんなものですか。九文字で抜き出しましょう。

**あんまり上手でない**

【3】ゴーシユは楽長にいつもいじめられています。それはなぜですか。あてはまるもの に つけましょう。

\*いつも遅刻ばかりしてくるから

( )

\*演奏が一番下手だから

( )

\*一生けん命で楽長を見ていないから

( )

【4】線から、ゴーシユの様子を書き抜きましょう。

口を **りんと結んで**

眼を **皿のようにして**

楽譜を **見つめながら**

もう **一心** に弾いています。

読む

人物像を読み取るつ(3)

名前

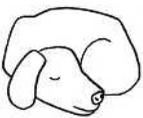
次の文章を読み、以下の問いに答えましょう。

二人の若いしんしが すっかりイギリスの兵隊の形をして ぴかぴかする鉄砲(てつぱう)をかついで、白くまのような犬を二ひき連れて、だいがぶ山おくの、木の葉のかさかさしたところを、こんなことを言いながら、歩いておりました。

「ゼンたい、このらの山はけしからんね。鳥もけものも一ひきもいやがらん。何でも構わないから、早くタンタアーンと、やってみたいもんだなあ。」

「しかの黄色な横っぱらなんぞに、二、三発おみまいもうしたら、ずいぶん痛快(痛快)だろうねえ。くるくる回って、それからどたとたおれるだろうねえ。」

それはだいがぶの山おくでした。案内してきた専門(せんもん)の鉄砲(てつぱう)うちも、ちよつとまごついてどこかへ行ってしまうたくらいの山おくでした。



それに、あんまり山がものすごいので、その白くまのような犬が、二ひきいっしょにめまいを起こして、しばらくくうなって、それからあわをはいて死んでしまいました。

「実にぼくは、二千四百円の損害(そんがい)だ。」  
と、一人のしんしが、その犬のまぶたを、ちよつと返してみて言いました。

「ぼくは二千八百円の損害だ。」  
と、もう一人が、くやしそつに、頭を曲げて言いました。

登場人物の人物像を読み取るためには、様子や行動を表す言葉を手がかりに自分の体験などと重ねながら想像することが大切です。

【1】「二人の若いしんし」はお金持ちであると考えられます。それを表す表現を次から一つ選びましょう。

- \* すっかりイギリスの兵隊の形をして ( )
- \* ぴかぴかする鉄砲をかついて ( )
- \* 木の葉のかさかさしたところを ( )

【2】線の言葉から想像できるしんしの気持ちを次から一つ選びましょう。

- \* えものがとれないのは、この山のせいだ。( )
- \* この山は動物がいないのでさびしいな。( )
- \* 動物を見つけれない自分が情けない。( )

【3】犬が死んだときのしんしの気持ちに当てはまるものはどちらでしょう。当てはまるもの( ) をつけましょう。

- \* せっかく高いお金を払って買ったのでとても損をした気分だ。( )
- \* かわいがっていた犬だったから急に死んでかわいそうだし、くやしい。( )

【4】上の文のしんしの様子や行動、会話からどんな人物として描かれていますか。□にあてはまるものを□から選び記号で書きましょう。

しんしは ( ) ( ) ( ) 金持ちである。自分勝手である。

- ア・生活のために狩りをしている。
- イ・生き物を殺すことを遊びだと考えている。
- ウ・山の生きものに敬意を持っている。

読む

人物像を読み取るつ(3)

名前

こたえと説明

二人の若いしんしが すっかりイギリスの兵隊の形をして、びかびかする鉄砲(てつぱう)をかついで、白くまのような犬を二ひき連れて、だいぶ山おくの木の葉のかさかしたところを、こんなことを言いながら、歩いておりました。

「ぜんたい、このらの山はけしからんね。鳥もけものも一ひきもいやがらん。何でも構わないから、早くタンタアーンと、やってみたいもんだなあ。」

「しかの黄色な横つばらなんぞに、一、二発おみまいもついたら、ずいぶん痛快(痛快)だろうつねえ。くるくる回って、それからどたつとたおれるだろうつねえ。」

それはだいがの山おくでした。案内してきた専門(せんもん)の鉄砲うちも、ちよつとまごついで、どこかへ行ってしまったくらいの山おくでした。

それに、あんまり山がものすごいで、その白くまのような犬が、二ひきいっしょにめまいを起こして、しばらくうなって、それからあわわはいて死んでしまいました。



「実にぼくは、二千四百円の損害(そんがい)だ。」

と、一人のしんしが、その犬のまぶたを、ちよつと返して、みて言いました。

「ぼくは二千八百円の損害だ。」

とも一人が、くやしそうに、頭を曲げて言いました。

(高沢賢治「注文の多い料理店」より)

やってみよう

あなたは、この若いしんしの人物像から感じたこと、思ったことを自分なりに書いてみましょう。

Blank writing area for student response.

↑「二人の若いしんし」はお金持ちであると考えられます。それを表す表現を次から1つ選びましょう。

- \* すっかりイギリスの兵隊の形をして ( )
- \* びかびかする鉄砲をかついで ( )
- \* 木の葉のかさかしたところを ( )

最初の段落では、「イギリスの兵隊の形」「びかびかする鉄砲」「白くまのような犬をつれて」という登場人物の姿が描かれています。お金持ちだと想像させるのは「びかびかする」から高価なものと考えられるから

② 線の言葉から想像できるしんしの気持ちを次から1つ選びましょう。

- \* えものがとれないのは、この山のせいだ。 ( )
- \* この山は動物がいないのでさびしいな。 ( )
- \* 動物を見つけれない自分が情けない。 ( )

言葉の中から、自分勝手なものの考え方がうかがえます。さげすんだ言い方が感じられますね。

③ 犬が死んだときのしんしの気持ちに当てはまるものは、どちらでしょう。当てはまるものを1つつけましょう。

- \* せつかく高いお金を払って買ったので、とても損をした気分だ。 ( )
- \* かわいがっていた犬だったから急に死んでかわいそうだし、くやしい。 ( )

犬のことを心配する言葉もなく、お金のことだけをくやしがる姿がえがかれていますね。

④ 上の文のしんしの様子や行動、会話からどんな人物として描かれていますか。□にあてはまるものを、から選び記号で書きましょう。



- ア 生活のために狩りをしている。
- イ 生き物を殺すことを遊びだと考えている。
- ウ 山の生きものに敬意を持っている。

「なんでも構わないから」「しかの黄色な、ずいぶん痛快だろうね」などの会話や犬の死に対する態度から想像される部分です。

読む

描写から読み取るつ(1)

名前



**描写**とは、書かれていることそのものを指しますが、できごとや人物、場面の様子などをくわしくしたり、分かりやすくしたりするための工夫された描写もたくさんあります。

描写されたものは、作者が見たものや感じたことを文章に書き表したものになります。

ですから、物語を読むときには描写をしつかりとらえて読むこと。そして、その描写から言葉や文章に含まれている**人物の気持ちや場面のふんいき**などを感じ取り、**想像しながら味わう**ことが必要になります。

くわしくしたり、分かりやすくするために工夫された描写にはつぎのようなものがあります。

- 行動を表す言葉
- 様子を表す言葉
- 音をあらわす言葉
- 慣用句
- 色を使った表現
- 比ゆを使った表現



やってみよう

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよつにやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉がしびきのよつにどどびさって、ちいさいじがすつとつるのでした。するととつぜん、後ろで、ドタドタ、ザッと、ものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさってきました。子ぎつねはびっくりして、雪の中に転がるようにして十メートルも向こうへにげました。なんだろうと思ってふり返ってみましたが、何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのでした。まだ、えだとえだの間から、白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。

(新美南吉)「てぶくろを買いた」(より)

ここでは、**比ゆを使った表現**に注目しましょう。

比ゆにはいくつか種類がありますが、あるものに例えて「まるで」のように(よつだ)という書き方で、その様子がよく分かるようにしたものです。

お母さんの笑顔は、まるで太陽のようにあたたかい。  
バケツの水をひっくり返したような大雨  
くんはぼくらの前を風のように走り抜けた。

例えることでその様子がよく分かりますね。みなさんも作文や日記の中でよく使っている表現の工夫ですね。

比ゆを使った表現を次の文に合うよつに、上の文から抜き出して書きましょつ。

のよつにやわらかい雪

のよつな粉雪

ちいさいじが

のよつに雪がこぼれて  
いました。

# 読む

## 描写から読み取るつ(1)

名前

こたえ



**描写**とは、書かれていることそのものを指しますが、できごとや人物、場面の様子などをくわしくしたり、分かりやすくしたりするための工夫された描写もたくさんあります。

描写されたものは、作者が見たものや感じたことを文章に書き表したものになります。

ですから、物語を読むときには描写をしつかりとらえて読むこと。そして、その描写から言葉や文章に含まれている**人物の気持ちや場面のふんいきなどを**感じ取り、**想像しながら味わう**ことが必要になります。

くわしくしたり、分かりやすくするために工夫された描写にはつぎのようなものがあります。

- 行動を表す言葉
- 様子を表す言葉
- 音をあらわす言葉
- 慣用句
- 色を使った表現
- 比ゆを使った表現



### やってみよう

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよつにやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉がしびきのよつにとびちって、ちいさいにじがすつとつるりました。するととつぜん、後ろでドタドタ、ザッと、ものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさつてきました。子ぎつねはびっくりして、雪の中に転がるようにして十メートルも向こうへにげました。なんだろうと思つてふり返つてみましたが、何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのでした。まだ えだとえだの間から、白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。

ここでは、**比ゆを使った表現**に注目しましょう。

比ゆにはいくつか種類がありますが、あるものに例えて「まるで」のように「ようだ」という書き方で、その様子がよく分かるようにしたものです。

お母さんの笑顔は、まるで太陽のようにあたたかい。  
バケツの水をひっくり返したような大雨  
くんはぼくらの前を風のように走り抜けた。

例えることでその様子がよく分かりますね。みなさんも作文や日記の中でよく使っている表現の工夫ですね。

比ゆを使った表現を次の文に合うように、上の文から抜き出して書きましよう。

**まわた**

のよつにやわらかい雪

**パン粉**

のよつな粉雪

**転がる**

のようにして

**白いきぬ糸**

のように雪がこぼれて  
いました。

読む

描写から読み取るつ(2)

名前

やってみよう

「ああ、そう式だ。」と、ごんは思いました。「兵十のうちのだれかが死んだんだろう。」

お昼をすぎると、ごんは、村の墓地へ行って、六じぞうさんのかけにかくれています。いいお天気で、遠くの向こうには、<sup>ア</sup>おしろの屋根がわらが光っています。墓地には、ひがんばなが、赤いきれのよつに、さき続いています。と、村の方から、カーン、カーンと、かねが鳴ってきました。そう式の出る合図です。やがて、白い着物を着たそう列の者たちがやってくるのが、ちらちら見え始めました。<sup>イ</sup>話し声も近くなりました。そう列は墓地へ入ってきました。人々が通ったあとには、<sup>ウ</sup>ひがんばながふみおられていました。

ごんは、のび上がってみました。兵十が、白いかみしもを着けて、いはいをささげています。いつもは、赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、<sup>エ</sup>今日は、何だかしおれていました。

(新美南吉「ごんぎつね」より)

上の文章を読んで次の問いに答えましょう。

【1】音を表す言葉(擬音語)を文中から書き抜きましょう。

また、その音が意味するものが何なのか、文中から抜き出して書きましょう。

音を表す言葉

この音が意味するもの

【2】次のことが分かる文は線<sup>ア</sup>エのどれですか。ふさわしいと思う文の記号を書きましょう。

そう列の者たちがごんの方に近づいている。

元気がなくしている兵十

【3】じぞうさんのかけから、ごんが、見ているものを、順に書き出しましょう。

物語での描写は、語り手や登場人物の視点から、場面の様子や登場人物の気持ちや言葉を文にしたものです。ここでは、五感(目・耳・鼻・口・手など)を使った描写から、場面の様子や登場人物の気持ちや味わいながら読んでみましょう。



どんな	何・だれ
光っている	おしろの屋根がわら
	ひがんばな
	そう列の者たち
	ひがんばな
白いかみしもを着けて、いはいをささげている	(兵十の)顔

# つたえと説明

## やっぴみやう

「ああ、そう式だ。」と、ごんは思いました。

「兵十のうちのだれかが死んだんだろっ。」

お唇をすぎると、ごんは、村の墓地へ行って、六じぞうさんのかけにかくれています。いいお天気で、遠くの向こうには、おしろの屋根がわらが光っています。

ます。墓地には、ひがんばなが、赤いきれのよつに、さき続いていました。と、村の方から、カーン、カーンと、かねが鳴ってきました。そう式の出る合図です。

やがて、白い着物を着たそう列の者たちがやってくるのが、ちらちら見え始めました。「話し声も近くなりました。そう列は墓地へ入ってきました。人々が通ったあとには、ッひがんばながふみおられていました。

ごんは、のび上がってみました。兵十が、白いかみしもを着けて、いはいをささげています。いつもは、赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、エ今日は、何だかしおれていました。

(新美南吉)「したせつむ」(ごん)



【1】音を表す表現(擬音語)をみつけ、それが意味するものを問う問題です。音を表す表現はカタカナで書くため見つけやすいですね。この音がその式の出る合図とごんです。その音のひびきを自分なりに想像しながら読むとごんがどう感じたか想像してください。

【2】話し声が近くなることごんは、聞く側ごんに近くなっていることごんがわかります。

【3】おけるとは花の元気がなくなるとき「使う言葉です。兵十の様子を花に例えて表現しているのです。

【4】ごんの視点から見えるものとして書かれた描写を読み取る問題です。大変よい天気の中にひがんばなの赤と着物の白が引き立っています。ねたいへんきれいな描写ですがひがんばなは「のあ」とひみおられていません。同じように赤いさつまいもみたいな元気のいい兵十の顔もおれていてごんから見たらごんもかわいそうと気持ちになったのではなごんが。

上の文章を読んで次の問いに答えましょう。

【1】音を表す言葉(擬音語)を文中から書き抜きましょう。

また、その音が意味するものは何なのか、文中から抜き出して書きましょう。

音を表す言葉

**カーン、カーン**

その音が意味するもの

## そう式の出る合図

【2】次のことが分かる文は線ア、エのどれですか。記号を書きまじょう。

そう列の者たちがごんの方に近づいている。

(イ)

元気がなくしている兵十

(エ)

【3】ごんさんのかけから、ごんが、見ているものを、順に書きまじょう。

どんな	何・だれ
光っている	おしろの屋根がわら
<b>赤いきれのよつに</b>	ひがんばな
<b>ッひがんばなが</b>	ひがんばな
<b>白い着物を着た</b>	そう列の者たち
<b>ふみおられていた</b>	ひがんばな
白いかみしもを着けて いはいをささげている	<b>兵十</b>
<b>何だかしおれて</b>	(兵十の)顔

読む

描写から読み取るつ (3)

名前

やってみよう

【1】 の部分から、ごんの行動を順を追って抜き出し、次の文を完成させましょう。

かごの中からいわしを

[ ]

もと来た方へ

[ ]

うちの中へいわしを

[ ]

あなへ向かって

[ ]

【2】 —線Aの部分から、ごんのどんな気持ちが想像できますか。ふさわしいもの一つ をつけまじょう。

\* 兵十を困らせよう。

( )

\* いわし屋につぐないをしよう。

( )

\* もつと兵十を喜ばせよう。

( )

【3】「ごんが「これはしまった」と思ったのはなぜですか。ふさわしいもの一つ をつけまじょう。

\* 自分のしたことで兵十に迷惑をかけたから

( )

\* 兵十がいわしを食べてはらをこわしたから

( )

\* 兵十はいわしよりもつなぎがすぎだったから

( )

【4】 —線イの部分のごんの行動は、【1】の行動と比べると気持ちの変化が見られます。ごんの行動のどの部分に違いがみられますか。違いのみられる部分を丸でかこみまじょう。

「ごんはこう思いながら、そつと物置の方へ回って、その入り口に、くりを置いて帰りました。次の日も、次の日も、ごんは、くりを拾っては、兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持ってきてきました。」

(前略)

いわし売りは、いわしのかごを積んだ車を道ばたに置いて、ぴかぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助のうちの中へ持って入りました。ごんはそのすき間に、かごの中から、五、六ぴきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十のうちのうち口から、うちの中へいわしを投げ込んで、あなへ向かってかけもどりました。とちゅうの坂の上でふり返ってみますと、兵十が、まだ、いどの所で麦をといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。

① 次の日には、ごんは、山でくりをどつさり拾って、それをかかえて、兵十のうちへ行きました。うち口からのぞいてみると、兵十は、昼飯を食べかけて、茶わんを持ったまま、ぼんやりと考える中でいました。変なことには、兵十のほつぺたに、かすりきずが付いています。どうしたんだろうと、ごんが思っていますと、兵十がひとり言を言いました。

「いったい、だれが、いわしなんかを、おれのうちへほうりこんでいったんだろう。おかげで、おれは、ぬす人と思われて、いわし屋のやつに、ひどい目にあわされた。」

と、ぶつぶつ言っています。

ごんは、「これはしまった」と思いました。

「かわいそつに、兵十は、いわし屋にぶんなぐられて、あんなきずまで付けられたのか。」

ごんは「こう思いながら、そつと物置の方へ回って、その入り口に、くりを置いて帰りました。」

次の日も、次の日も、ごんは、くりを拾っては、兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持ってきてきました。

(前略)

いわし売りは、いわしのかごを積んだ車を道はたに置いて、びかびか光るいわしを両手でつかんで、弥助のうちのの中へ持って入りました。ごんは、そのすき間に、かごの中から、五、六びきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十のうちのうしろから、うちの中へいわしを投げ込んで、あなへ向かってかけました。とちゅうの坂の上でふり返ってみますと、兵十が、まだ、いどの所で麦をといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。

次の日には、ごんは、山でくりをどっさり拾って、それをかかえて、兵十のうちへ行きました。うしろからのぞいてみると、兵十は、昼飯を食べかけて、茶わんを持ったまま、ぼんやりと考えるでいました。変なことに、兵十のほっぺたに、かすりきずが付いています。どうしたんだらうと、ごんが思っていますと、兵十がひとり言を言いました。

「いったい、だれが、いわしなんかを、おれのうちへほうりこんでいったんだらう。おかげで、おれは、ぬす人と思われて、いわし屋のやつに、ひどい目にあわされた。」

と、ぶつぶつ言っています。

ごんは、「これはしまった」と思いました。「かわいそうに、兵十は、いわし屋にぶんなぐられて、あんなきずまで付けられたのか。」

ごんはこつ思いながら、そつと物置の方へ回って、その入り口に、くりを置いて帰りました。次の日も、次の日も、ごんは、くりを拾っては、兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持ってきていました。

やってみよう

【1】 — 部分から、ごんの行動を順を追って書き抜きましょう。

かごの中からいわしを

つかみ出して

もと来た方へ

かけだしました

うちの中へいわしを

投げ込んで

あなへ向かって

かけもどりました

【2】 — 線アの部分から、ごんのどんな気持ちが想像できますか。ふさわしいもの( )一つ をつけましよう

兵十を困らせよう。

( )

いわし屋につぐないをしよう。

( )

もつと兵十を喜ばせよう。

( )

【3】 ごんが「これはしまった」と思ったのはなぜですか。ふさわしいもの( )一つ をつけましよう。

自分のしたことで兵十にめいわくをかけたから ( )

兵十がいわしを食べてはらをこわしたから ( )

兵十はいわしよりもうなぎがすぎだったから ( )

【4】 — 線イの部分のごんの行動は、【1】の行動と比べると気持ちの変化が見られます。ごんの行動のどの部分に違いがみられますか。違いのみられる部分を丸でかこみましよう。

ごんはこつ思いながら、そつと物置の方へ回って

その入り口に、くりを置いて帰りました。



【1】のごんは乱暴に魚をあつかう様子やいそいでいる感じが感じられましたね。【4】の部分では「そつと」動いて、栗を投げるのではなく置いたところが違いますね。



どっさり拾っての「どっさり」がなかったらどんな感じがしますか？。わざわざ「どっさり」拾うごんの姿は、兵十に喜んでもらいたい気持ちがいっぱいですね。

いいことをしたつもりが、自分が投げ込んだいわしのこと兵十がなぐられたわけだから。

ごんの行動からはどんな様子が想像できますか。「つかむ」と「つかみ出す」、「投げる」と「投げ込む」の違いからも、いそいでいるごんの様子がうかがえる書き方ですね。

# 段落の要点をとらえよう

名前

## 要点ってなに？

段落の中で筆者が言いたい大事な内容を要点といいます。



## れんしゅう

次の文章で要点をまとめてみよう。

はじめに、パンのよいところを考えてみましょう。パンは、サンドイッチやハンバーガーなどにすると、主食も主菜も副菜も全部一度に取ることができ、急いでいる時など大変便利です。しかも、パンには、三大栄養素である炭水化物・たんぱく質・脂質がすべて含まれている優れた食品です。

この文章は、いくつの文でできていますか。

つ

何回もでてきている言葉は何ですか。一つ書きましよう。

ア

この文章には、何のことが書かれていますか。八字で抜き出ましよう。

パンのよいところを二つ書きましよう。

パンは、

パンには、

とを短い言葉でまとめてみましよう。

イ

ウ

アとイとウは、この文章の中で大事な言葉です。

アとイとウの言葉を使って文をつくりましよう。最後は「パン」で終わるましよう。

パン。

要点ってなに？

段落の中で筆者が言いたい大事な内容を要点といいます。



れんしゅう

次の文章で要点をまとめてみよう。

はじめに、パンのよいところを考えてみましょう。パンは、サンドイッチやハンバーガーなどにすると、主食も主菜も副菜も全部一度に取ることができ、急いでいる時など大変便利です。しかも、パンには、三大栄養素である炭水化物・たんぱく質・脂質がすべて含まれている優れた食品です。

この文章は、いくつの文でできていますか。

三つ

何回もでてきている言葉は何ですか。一つ書きましょう。

ア パン

この文章には、何のことが書かれていますか。八字で抜き出しましょう。

パンのよいところ

パンのよいところを二つ書きましょう。

パンは、急いでいる時など大変便利

パンは、三大栄養素がすべて含まれている優れた食品

とを短い言葉でまとめてみましょう。

イ パンは、便利

ウ パンは、優れた食品

アとイとウは、この文章の中で大事な言葉です。

アとイとウの言葉を使って文をつくりましょう。最後は「パン」で終わるようにつきます。

便利で、優れた食品であるパン。

説明的な文章（説明文など）の文章の組み立ては、ふつう、次の形になっています。話題や問いかけを示す「序論」、話題や問いかけについて説明する「本論」、全体をまとめる「結論」の三つです。



車は、ガソリンを入れて走ります。パソコンは電気を使って動きます。人間は、どうでしょう。人間は、食事をすることによって、生きるためのエネルギーを取り入れています。食事は、人間にとって、とても大切なものです。

食事の中には、主食、主菜、副菜などがあります。主食は、パンやご飯。主菜は、おかず。副菜はサラダなどのことです。主食であるパンやご飯は、食事の中でも重要な存在です。

みなさんの中には、ご飯が好きな人もパンが好きな人もいます。では、ご飯とパン、いったいどちらが主食に適しているのでしょうか。

はじめに、パンのよいところを考えてみましょう。パンは、サンドイッチやハンバーガーなどにすると、主食も主菜も副菜も全部一度に取ることができます。急いでいる時など大変便利です。しかも、パンには、三大栄養素である炭水化物・たんぱく質・脂質がすべて含まれている優れた食品です。

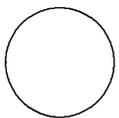
次に、ご飯のよいところを考えてみましょう。ご飯もパンと同じように三大栄養素がすべて含まれています。しかし、パンと違うところは、カロリーと脂質が少ないということです。カロリーも脂質も取りすぎると、生活習慣病の原因になります。その点、ご飯は、脂質の少ない低カロリー食品といえます。

このように、パンとご飯のどちらにも、それぞれいいところがあります。時と場合に応じて、両方のよいところを上手に使い分けた食生活を送っていききたいものです。

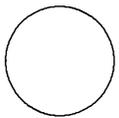
書き下ろし

上の文章は、六つの段落でできていますね。この段落を三つのまとまりに分けてみましょう。

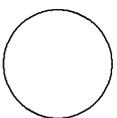
「序論」…話題や問いかけ



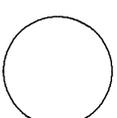
から



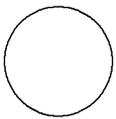
「本論」…例を使って説明している



から



「結論」…全体をまとめている



つなぎ言葉（接続語）いろいろ



「はじめに」…最初に、真つ先に。

「次に」…その次に、その後。

「このように」…前のことをまとめて。

説明的な文章（説明文など）の文章の組み立ては、ふつう、次の形になっています。話題や問いかけを示す「序論」、話題や問いかけについて説明する「本論」、全体をまとめる「結論」の三つです。



車は、ガソリンを入れて走ります。パソコンは電気を使って動きます。人間は、どうでしょう。人間は、食事をすることによって、生きるためのエネルギーを取り入れています。食事は、人間にとって、とても大切なものです。

食事の中には、主食、主菜、副菜などがあります。主食は、パンやご飯。主菜は、おかず。副菜はサラダなどのことです。主食であるパンやご飯は、食事の中でも重要な存在です。

みなさんの中には、ご飯が好きな人もパンが好きな人もいます。では、ご飯とパン、いったいどちらが主食に適しているのでしょうか。

はじめに、パンのよいところを考えてみましょう。パンは、サンドイッチやハンバーガーなどにすると、主食も主菜も副菜も全部一度に取ることができます。急いでいる時など大変便利です。しかも、パンには、三大栄養素である炭水化物・たんぱく質・脂質がすべて含まれている優れた食品です。

次に、ご飯のよいところを考えてみましょう。ご飯もパンと同じように三大栄養素がすべて含まれています。しかし、パンと違うところは、カロリーと脂質が少ないということです。カロリーも脂質も取りすぎると、生活習慣病の原因になります。その点、ご飯は、脂質の少ない低カロリー食品といえます。

このように、パンとご飯のどちらにも、それぞれいいところがあります。時と場合に応じて、両方のよいところを上手に使分けした食生活を送っていききたいものです。

書き下ろし

上の文章は、六つの段落でできていますね。この段落を三つのまとまりに分けてみましょう。

「序論」…話題や問いかけ

1

から

3

「本論」…例を使って説明している

4

から

5

「結論」…全体をまとめている

6

つなぎ言葉（接続語）いろいろ



「はじめに」…最初に、真つ先に。

「次に」…その次に、その後。

「このように」…前のことをまとめて。

# 要旨をとらえよう

名前

要旨は、筆者の一番伝えたいことです。  
文章全体の内容の中心といえます。



まずは、段落の要点をまとめてみましょう。



車は、ガソリンを入れて走ります。パソコンは電気を使って動きます。人間は、どうでしょう。人間は、食事をすることによって、生きるためのエネルギーを取り入れています。食事は、人間にとって、とても大切なものです。

食事の中には、主食、主菜、副菜などがあります。主食は、ご飯やパン。主菜は、おかず。副菜はサラダなどのことです。主食であるご飯やパンは、食事の中でも重要な存在です。

みなさんの中には、ご飯が好きな人もパンが好きな人もいます。では、ご飯とパン、いったいどちらが主食に適しているのでしょうか。

はじめに、パンのよいところを考えてみましょう。パンは、サンドイッチやハンバーガーなどにすると、主食も主菜も副菜も全部一度に取ることができ、急いでいる時など大変便利です。しかも、パンには、三大栄養素である炭水化物・たんぱく質・脂質がすべて含まれている優れた食品です。

次に、ご飯のよいところを考えてみましょう。ご飯もパンと同じように三大栄養素がすべて含まれています。しかし、パンと違うところは、カロリーと脂質が少ないということです。カロリーも脂質も取りすぎると、生活習慣病の原因になります。その点、ご飯は、脂質の少ない低カロリー食品といえます。

このように、パンとご飯のどちらにも、それぞれいいところがあります。時と場合に応じて、両方のよいところを上手に使い分けた食生活を送っていききたいものです。

書き下ろし


要旨を考えましょう。



Large empty rounded rectangle for writing the summary.

# 要旨をとらえよう

名前

要旨は、筆者の一番伝えたいことです。  
文章全体の内容の中心といえます。



まずは、段落の要点をまとめてみましょう。



車は、ガソリンを入れて走ります。パソコンは電気を使って動きます。人間は、どうでしょう。人間は、食事をすることによって、生きるためのエネルギーを取り入れています。食事は、人間にとって、とても大切なものです。

食事の中には、主食、主菜、副菜などがあります。主食は、ご飯やパン。主菜は、おかず。副菜はサラダなどのことです。主食であるご飯やパンは、食事の中でも重要な存在です。

みなさんの中には、ご飯が好きな人もパンが好きな人もいます。では、ご飯とパン、いったいどちらが主食に適しているのでしょうか。

はじめに、パンのよいところを考えてみましょう。パンは、サンドイッチやハンバーガーなどにすると、主食も主菜も副菜も全部一度に取ることができ、急いでいる時など大変便利です。しかも、パンには、三大栄養素である炭水化物・たんぱく質・脂質がすべて含まれている優れた食品です。

次に、「ご飯のよいところ」を考えてみましょう。ご飯もパンと同じように三大栄養素がすべて含まれています。しかし、パンと違うところは、カロリーと脂質が少ないということです。カロリーも脂質も取りすぎると、生活習慣病の原因になります。その点、ご飯は、脂質の少ない低カロリー食品といえます。

このように、パンとご飯のどちらにも、それぞれよいところがあります。時と場合に応じて、両方のよいところを上手に使い分けた食生活を送っていききたいものです。

書き下ろし

パンとご飯のよいところを上手に使い分けた食生活を送っていききたい。

要旨を考えましょう。



食事は、人間にとって、とても大切。	パンやご飯は、食事の中でも重要な存在。	パンとご飯はどちらが主食に適しているか。	便利で、優れた食品であるパン	低カロリー食品であるご飯	両方のよいところを上手に使い分けた食生活
-------------------	---------------------	----------------------	----------------	--------------	----------------------

ふくろうのひみつ

夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥、おとぎ話で魔法使いと一緒にいる鳥といえはふくろうです。

でも、本当はおとなしくて、かわいい鳥なんです。みなさんは、そんなふくろうのひみつを知っていますか。

一つ目のひみつは、ふくろうが行動する時間です。ふくろうは、夜になると大変忙しくなります。ふくろうにとっては、夜が昼で、昼が夜なのです。つまり、人間が起きているときは、いつもぼおつとしていますが、夜になると、えさを取ったり、羽をつくらったり、仲間と連絡をとったりと、大忙しになるのです。

二つ目のひみつは、よく動く首です。夜目を覚ますと、右・左・上・下・後ろ・ぐるりと一回りなど、頭をすつきりさせるために、首の体操をしているのです。

三つ目のひみつは、やわらかい羽です。このやわらかい羽は、速く飛んでも音がでません。そのおかげで、えさをとるとき少しも気付かれずに、えものに近付くことができます。

わたしたちがおきている昼間は、いつもぼおつとしているふくろうにも、このようなひみつがあるのです。夜、大忙しのふくろうに会いにいくと、もつといろいろなひみつが見つかるかもしれませんね。

上の文章を形式段落に分けると、六つの形式段落に分けられます。それぞれの段落の中で、一番大切な一文はどれでしょう。上の文章から、それぞれ抜き出しましょう。


ふくろうのひみつ

夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥、おとぎ話で魔法使いと一緒にいる鳥といえはふくろうです。

でも、本当はおとなしくて、かわいい鳥なんです。みなさんは、そんなふくろうのひみつを知っていますか。

一つ目のひみつは、ふくろうが行動する時間です。ふくろうは、夜になると大変忙しくなります。ふくろうにとっては、夜が昼で、昼が夜なのです。つまり、人間が起きているときは、いつもぼおっとしていますが、夜になると、えさを取ったり、羽をつくろたり、仲間と連絡をとったりと、大忙しになるのです。

二つ目のひみつは、よく動く首です。夜目を覚ますと、右・左・上・下・後ろ・ぐるりと一回りなど、頭をすつきりさせるために、首の体操をしているのです。

三つ目のひみつは、やわらかい羽です。このやわらかい羽は、速く飛んでも音がでません。そのおかげで、えさをとるとき少しも気付かれずに、えものに近づくことができるのです。

わたしたちがおきている昼間は、いつもぼおっとしているふくろうにも、このようなひみつがあるのです。夜、大忙しのふくろうに会いにいくと、もつといろいろなひみつが見つかるかもしれませんね。

上の文章を形式段落に分けると、六つの形式段落に分けられます。それぞれの段落の中で、一番大切な一文はどれでしょう。上の文章から、それぞれ抜き出しましょう。

	夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥、おとぎ話で魔法使いと一緒にいる鳥といえはふくろうです。
	みなさんは、そんなふくろうのひみつを知っていますか。
	一つ目のひみつは、ふくろうが行動する時間です。
	二つ目のひみつは、よく動く首です。
	三つ目のひみつは、やわらかい羽です。
	わたしたちがおきている昼間は、いつもぼおっとしているふくろうにも、このようなひみつがあるのです。

要約するために

名前

ふくろうのひみつ

夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥、おとぎ話で魔法使いと一緒にいる鳥といえはふくろうです。

でも、本当はおとなしくて、かわいい鳥なんです。みなさんは、そんなふくろうのひみつを知っていますか。

一つ目のひみつは、ふくろうが行動する時間です。ふくろうは、夜になると大変忙しくなります。ふくろうにとっては、夜が昼で、昼が夜なのです。つまり、人間が起きているときは、いつもぼおっとしていますが、夜になると、えさを取ったり、羽をつくろたり、仲間と連絡をとったりと、大忙しになるのです。

二つ目のひみつは、よく動く首です。夜目を覚ますと、右・左・上・下・後ろ・ぐるりと一回りなど、頭をすつきりさせるために、首の体操をしているのです。

三つ目のひみつは、やわらかい羽です。このやわらかい羽は、速く飛んでも音がでません。そのおかげで、えさをとるとき少しも気付かれずに、えものに近づくことができるのです。

わたしたちがおきている昼間は、いつもぼおっとしているふくろうにも、このようなひみつがあるのです。夜、大忙しのふくろうに会いにいくと、もつといるいるなひみつが見つかるかもしれませんね。

「要約するために」で抜き出した文章を次のことに注意して要点にまとめよう。

- ・主語、述語、キーワード（大事な言葉）を見つける。
  - ・文末を体言止めにする。
- （例えば）のひみつ。〜こと。〜  
 ふくろう など、もの名前などで終わる言い方を体言止めといいます。


ふくろうのひみつ

夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥、おとぎ話で魔法使いと一緒にいる鳥といえはふくろうです。

でも、本当はおとなしくて、かわいい鳥なんです。みなさんは、そんなふくろうのひみつを知っていますか。

一つ目のひみつは、ふくろうが行動する時間です。ふくろうは、夜になると大変忙しくなります。ふくろうにとっては、夜が昼で、昼が夜なのです。つまり、人間が起きているときは、いつもぼおっとしていますが、夜になると、えさを取ったり、羽をつくろたり、仲間と連絡をとったりと、大忙しになるのです。

二つ目のひみつは、よく動く首です。夜目を覚ますと、右・左・上・下・後ろ・ぐるりと一回りなど、頭をすつきりさせるために、首の体操をしているのです。

三つ目のひみつは、やわらかい羽です。このやわらかい羽は、速く飛んでも音がでません。そのおかげで、えさをとるとき少しも気付かれずに、えものに近づくことができるのです。

わたしたちがおきている昼間は、いつもぼおっとしているふくろうにも、このようなひみつがあるのです。夜、大忙しのふくろうに会いにいくと、もつといるいるなひみつが見つかるかもしれませんね。

「要約するために」で抜き出した文章を次のことに注意して要点にまとめよう。

	夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥のふくろう。
	みんな知らないふくろうのひみつ
	一つ目のひみつは行動する時間
	二つ目のひみつはよく動く首
	三つ目のひみつはやわらかい羽
	もつとありそうなふくろうのひみつ



ふくろうのひみつ

夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥、おとぎ話で魔法使いと一緒にいる鳥といえはふくろうです。

でも、本当はおとなしくて、かわいい鳥なんです。みなさんは、そんなふくろうのひみつを知っていますか。

一つ目のひみつは、ふくろうが行動する時間です。ふくろうは、夜になると大変忙しくなります。ふくろうにとっては、夜が昼で、昼が夜なのです。つまり、人間が起きているときは、いつもぼおっとしていますが、夜になると、えさを取ったり、羽をつくろたり、仲間と連絡をとったりと、大忙しになるのです。

二つ目のひみつは、よく動く首です。夜目を覚ますと、右・左・上・下・後ろ・ぐるりと一回りなど、頭をすつきりさせるために、首の体操をしているのです。

三つ目のひみつは、やわらかい羽です。このやわらかい羽は、速く飛んでも音がでません。そのおかげで、えさをとるとき少しも気付かれずに、えものに近付くことができます。

わたしたちがおきている昼間は、いつもぼおっとしているふくろうにも、このようなひみつがあるのです。夜、大忙しのふくろうに会いにいくと、もつといるいるなひみつが見つかるかもしれませぬ。

上の文章を要約してみましよう。「要約するために」でまとめた要点をつないで、物語のあらすじのように書きましよう。

夜の森を飛んでいる、何だかこわそうな鳥のふくろうには、みんな知らないひみつが三つある。

一つ目のひみつは行動する時間。

二つ目のひみつはよく動く首。

三つ目のひみつはやわらかい羽。

こんなふくろうには、みんなの知らないひみつが、もつとあるかもしれない。

読む

物語文を読もう

名前

次の文章を読んで問題に答えましょう。

ガチョウのたん生日

にいみなんきち  
新美南吉



あるおひやくしよつやのうら庭にアヒルや、ガチョウや、モルモットや、ウサギや、イタチなどが住んでおりました。

さて、ある日のこと ガチョウのたん生日というので、みんなはガチョウのところへいこちそつにまねかれて行きました。

これで、イタチさえよんでくれば、みんなお客がそろつわけですが、さて、イタチはどうしましょう。みんなは、イタチは決してわるものではないことを知っております。けれど、イタチには、たったひとつ、よくないせがありました。それは、おおぜいの前では、言うことができないようなくせでありました。何かともうしますと、ほかでもありません、大きなげいおならをすることあります。しかし、イタチだけをよばないと、イタチはきつとおこるにちがいありません。

そこで、ウサギがイタチのところへつかいにやっつていきました。

「今日はガチョウさんのたん生日ですからおでかけください。」

「あ、そうですね。」

「ところで、イタチさん、ひとつおねがいがあるのですが。」

「何ですか。」

「あの、すみませんが、今日だけはおならをしないでください。」

イタチははずかしくて、顔を真っ赤にしました。そして、

「ええ、決してしません。」と 答えました。



(新美南吉「ガチョウの誕生日」より)

一、登場人物をすべて書きましょう。

Blank box for writing the names of the characters.

二、登場人物の中で「みんな」の中にいないのはだれですか。

Blank box for writing the name of the character not in the group.

三、「さて、イタチはどうしましょう。」と考えたのはなぜでしょう。ア、イにあてはまる言葉を入れて、次の文を完成させましょう。

イタチは決してア  ではないが、  
イ  をするくせがあったから。

Blank box for writing the answer to question three.

Blank box for writing the answer to question three.

四、イタチが顔を真っ赤にしたのはなぜですか。次のア～ウの中からあてはまるものをえらんで、 に記号を書きましょう。

- ア 大好きなガチョウのたん生日にさそわれたから
- イ 気にしているくせについてお願いをされたから
- ウ 自分がさいごにさそわれてくやしかったから

Blank box for writing the answer to question four.

読む

物語文を読もう

(ガチヨウのたん生日)

名前

「たえとせつめい」

次の文章を読んで問題に答えましょう。

ガチヨウのたん生日

新美南吉



あるおひやくしょうやのうら庭にアヒルや、ガチヨウや、モルモットや、ウサギや、イタチなどが住んでおりました。

さて、ある日のこと ガチヨウのたん生日というので、みんなはガチヨウのところへ「ちそつにまねかれて行きました。

これで、イタチさえよんでくれば、みんなお客がそろつわけですが、さて、イタチはどうでしょう。みんなは、イタチは決してわるものではないことを知っておりました。けれど、イタチには、たったひとつ、よくないくせがありました。それは、おおぜいの前では、言うことができないようなくせでありました。何かともうしますと、ほかでもありません、大きなげしいおならをするのであります。しかし、イタチだけをよばないと、イタチはきつとおこるにちがいありません。そこで、ウサギがイタチのところへつかいにやってきました。

「今日はガチヨウさんのたん生日ですからおでかけください。」

「あ、そうですね。」

「ところで、イタチさん、ひとつおねがいがあるのですが。」

「何ですか。」

「あの、すみませんが、今日だけはおならをしないでください。」

イタチははずかしくて、顔を真っ赤にしました。そして、

「ええ、決してしません。」

と 答えました。



(新美南吉「ガチヨウのたん生日」より)

一、登場人物をすべて書きましよう。

アヒル  
ガチヨウ  
モルモット  
ウサギ  
イタチ

登場人物とは 人のように話したり動いたりするものをいいます。木がしゃべったら、それも登場人物です。ここでは、ウサギやイタチがしゃべっていますし、他の動物も人間のように書かれていますね。

二、登場人物の中で「みんな」の中にいないのはだれですか。

イタチ

登場人物の中で、ガチヨウのところに来ていないのはだれですか？「イタチさえよんでくればみんなお客さんがそろつ」と書いてあるから、来ていないのはイタチですね。

三、「さて、イタチはどうしましよう。」と考えたのはなぜでしょう。ア、イにあてはまる言葉を入れて、次の文を完成させましよう。

イタチは決して  ア  ではないが、 イ  をするくせがあったから。

ア わるもの

イ 大きなげしいおなら

どうしてそう思うのかは、同じだらしく書いてありますね。そのまま書くと長い文ですが、大事なことだけ書くことも大切ですね。

四、イタチが顔を真っ赤にしたのはなぜですか。次のア〜ウの中からあてはまるものをえらんで、 に記号を書きましよう。

ア 大好きなガチヨウのたん生日にさそわれたから

イ 自分のよくないくせについてお願いをされたから

ウ 自分がさいにさそわれてくやしかったから

イ

顔を真っ赤にしたのは、はずかしいからです。イタチのつもりになって考えるとよくわかりますね。

手ぶくろを買いに

新美 南吉 にいみ なんきち

寒い冬が北方から、きつねの親子のすんでいる森へもやって来ました。

ある朝、ほらあなから子どものきつねが出ようとしたが、

「あつ。」

とさけんで、目をおさえながら母さんぎつねのところへころけて来ました。

「母ちゃん、目に何かささった、

ぬいてちょうだい早く、早く。」  
と言いました。

母さんぎつねがびっくりして、あわてふためきながら、目をおさえている子どもの手を A 取り

のけてみましたが、何もささってはいませんでした。母さんぎつねは、ほらあなの入り口から外へ出てはじめてわけが分かりました。昨夜のうちに、真っ白な雪がどっさり降ったのです。その雪の上からお日さまがキラキラとてらしていたので、雪はまぶしいほど反しやしていたのです。雪を知らなかった子どものきつねは、あまり強い反しやをつけたので、目<sup>め</sup>に何かささったと思っただけでした。

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよう<sup>よう</sup>にやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉が、しぶきの<sup>しぶき</sup>のようにとびちって小さいじがすつとつづるのでした。

するととつぜん、<sup>とつぜん</sup>しるで、ドタドタ、ザツとも<sup>とも</sup>のすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと<sup>あつ</sup>と子ぎつねにおっかぶさって来ました。子ぎつねはび<sup>び</sup>っくりして、雪の中<sup>なか</sup>にころがるま<sup>ま</sup>つにして十メートルも向こうへにげました。何だろつと思つてふり返つてみましたが何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのです。まだえだ<sup>えだ</sup>とえだの間から白いきぬ糸のよう<sup>よう</sup>に雪がこぼれていました。

(新美南吉)「手ぶくろを買いに」より



上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

【場面を読み取る】

一、季節と登場人物を文中から抜き出しましょう。(季節 一文字 登場人物 六文字)

季節

登場人物

(六文字)

--	--	--	--	--

【内容をたしかに読み取る】

二、部<sup>ぶ</sup>で、子ぎつねが目<sup>め</sup>にささったと思つたものは何ですか。

当てはまるものに丸を付けましょう。

- ( ) 真っ白な雪
- ( ) お日さまの反しやした強い光
- ( ) もみの木の枝

【様子をそつそつしながら読む】

三、Aの中には、子ぎつねのことを心配する母さんぎつねの気持ちを表す言葉が入ります。当てはまるものに丸を付けましょう。

- ( ) おそろおそろ
- ( ) つぎつきしながら
- ( ) ゆっくりと

【よつすや動きを表す言葉から心情を読み取る】

四、上の文には、ものすごい音とかぶさつてきた雪におどろく様子が書かれています。それはどんな様子でしたか。次の文の   に言葉をを入れて完成させましょう。

雪の中に

して

へにげました。

【文章の組み立てをとらえて読む】

五、上の文章は、大きく三つに分けることができます。書かれている順番を ( ) に書きましょう。

- ( ) 子ぎつねが初めて雪を見た場面
- ( ) 物語の場面を説明するだん落
- ( ) 子ぎつねが雪の中で遊ぶ場面

上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

手ぶくろを買いに

新美 南吉

寒い冬が北方から、きつねの親子のすんでいる森へもやって来ました。

ある朝、ほらあなから子どものきつねが出ようとしたが、

「あつ。」

とさげんで、目をおさえながら母さんきつねのところへころけて来ました。

「母ちゃん、目に何かささった、ぬいてちょうだい早く、早く。」

と言いました。

母さんきつねがびっくりして、あわてふためきながら、目をおさえている子どもの手を

A 取り

のけてみましたが、何もささってはいませんでした。母さんきつねは、ほらあなの入り口から外へ出てはじめてわけが分かりました。昨夜のうちに、真っ白な雪がびっさり降ったのです。その雪の上からお日さまがキラキラとキラしていたので、雪はまぶしいほど反しやしていたのです。雪を知らなかった子どものきつねは、あまり強い反しやをうけたので、目に何かささったと思ったのです。

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのようにはやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉が、しぶきのようにとびちって小さいにじがすっとうっすらと

するどとつぜん、うじるで、ドタドタ、ザッとものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさって来ました。子ぎつねはびっくりして、雪の中にころがるようにして十メートルも向こうへにげました。何だろつと思つてふり返つてみましたが何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのです。まだえたとえだの間から白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。



物語の最初には、物語の季節や場所、登場人物などが書かれていますよ。

「何もささっていない。」とあるので、子ぎつねがそう思った理由を読み取っていくことが大切です。

気持ちを表す動きですね。母さんきつねの気持ちを考えるといいですね。

注意深くおくびょうな子ぎつねの様子が見える文章です。文がつながるように書きましょう。

物語には、初めの説明(場面の季節、場所、登場人物など)がかならずありますね。

一、季節と登場人物を文中から抜き出しましょう。(季節 一文字 登場人物 六文字)

季節 **冬**

登場人物 **きつねの親子**  
(六文字)

二、子ぎつねが目にはささったと思つたものは何ですか。

当てはまるものに丸を付けましょう。

- ( ) おそろのおそろ
- ( ) 真つ白な雪
- ( ) お日さまの反しやした強い光
- ( ) もみの木の枝

三、A の中には、子ぎつねのことを心配する母さんきつねの気持ちを表す言葉が入ります。当てはまるものに丸を付けましょう。

- ( ) おそろのおそろ
- ( ) つきつきしながら
- ( ) ゆっくりと

四、上の文には、ものすごい音とかぶさってきた雪におどろく様子が書かれています。それはどんな様子でしたか。次の文の [ ] に言葉を入れて完成させましょう。

雪の中に [ ] ころがるようにして

十メートルも向 [ ] へにげました。

五、上の文章は、大きく三つに分けることができます。書かれている順番を ( ) に書きましょう。

- ( 2 ) ( ) 子ぎつねが初めて雪を見た場面
- ( 1 ) ( ) 物語の場面を説明するだん落
- ( 3 ) ( ) 子ぎつねが雪の中で遊ぶ場面

手ぶくろを買いに

新美 南吉

雪の中であそび、つめたくなつた子ぎつねの手を見て、母さんぎつねは手ぶくろを買ってあげようと思います。そこで、親子のきつねは、夜がくるのを待っていました。

暗い暗い夜がふるしぎのよう

なかけをひろげて野原や森をつつみにやつてきましたが、雪はあまり白いので、つっんでもつっんでも白くうかびあがっていました。

親子の銀ぎつねはほらあなから出ました。子どものはお母さんのおなかの下へ入りこんで、そこからまんまるな目をばちばちさせながら、あっちゃこつちを見ながら歩いて行きました。



やがて、行く手にぽつとり、明かりが一つ見え始めました。それを子どもはきつねが見つけて、「母ちゃん、お星さまは、あんな低いところにも落ちてるのねえ。」と聞きました。

「あれはお星さまじゃないのよ。」  
と云つて、そのとき、母さんぎつねの足はすくんでしまいました。

「あれは 町の灯(ひ)なんだよ。」  
その町の灯を見たとき、母さんぎつねは、あるとき町へお友達と出かけていって、とんだ目にあつたことを思い出しました。およしなさいつて言つのも聞かないで、お友達のきつねが、ある家のあひるをぬすもうとしたので、おひやくしょうに見つかつて、さんざ追いまくられて、命からがらにげたことでした。

「母ちゃん、何してんの。早く行こつよ。」  
と、子どものきつねがおなかの下から言つのでしたが、母さんぎつねはどうしても足が進まないのでした。そこで、しかたがないので、ぼつやだけを一人で町まで行かせることになりました。

(よ) 手ぶくろを買いに「新美南吉

上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

【場面の様子を読み取る】

- 一、線 はどんな様子を表していますか。  
あてはまるものに丸を付けましょう。
- ( ) 夕方から夜になっていく様子  
( ) 真夜中の様子  
( ) 夜から朝になっていく様子

【動きやよつすを表す言葉から心情を想像する】

- 二、この子ぎつねは、はじめて夜に外を歩いています。そのことが分かる文を探して、次の文を完成させましょう。

まんまるな目を

させながら、

を見ながら歩いて行きました。

【内容をたしかに読み取る】

- 三、線 の「町の灯(ひ)」を見て、子ぎつねは何だと思いましたが。

【言葉の意味を理解する】

- 四、線 の「足が進まない」について、次の問いに答えましょう

- (1) 「足が進まない。」と同じ意味の言葉を文中からさがし、次の文を完成させましょう。

母さんぎつねの

は

しまいました。

【行動を表す言葉から心情を読み取る】

- (2) なぜ、母さんぎつねは足が進まなくなつたのですか。当てはまるものに丸を付けましょう。

- ( ) 町の灯が星のようできれいだったから  
( ) こわかったことを思い出したから  
( ) 子ぎつねだけで町に行かせたかったから

手ぶくろを買いに(2)

名前

答えとせつめい

手ぶくろを買いに

新美 南吉

雪の中であそび、つめたくなつた子ぎつねの手を見て、母さんぎつねはてぶくろを買ってあげようと思います。そこで、親子のきつねは、夜がくるのを待っていました。

暗い暗い夜がふるしきのよつな

かげをひろげて野原や森をつつみにやってきましたが、雪はあまり白いで、つつんでももつつんでも白くうかびあがっていました。

親子の銀ぎつねはほらあなから出ました。子どものはお母さんのおなかの下へ入りこんで、そこからまんまるな目をぱちぱちさせながら、あつちやこつちを見ながら歩いて行きました。



やがて、行く手にぽつとり、明かりが一つ見え始めました。それを子どもはぎつねが見つけて、「母ちゃん、お星さまは、あんな低いところにも落ちてるのねえ。」と聞きました。

「あれはお星さまじゃないのよ。」  
 と言つて、そのとき、母さんぎつねの足はすくんでしまいました。

「あれは 町の灯(ひ)なんだよ。」  
 その町の灯を見たとき、母さんぎつねは、あるとき町へお友達と出かけていつて、とんだ目にあつたことを思い出しました。およしなさいつて言つのも聞かないで、お友達のきつねが、ある家のおひるをぬすもうとしたので、おひやくしょうに見つかつて、さんざ追いまくられて、命からがらにげたことでした。

「母ちゃん、何してんの。早く行つてよ。」  
 と、子どものきつねがおなかの下から言つのでしたが、母さんぎつねはどうしても足が進まないのでした。そこで、しかたがないので、ぼつやだけを一人で町まで行かせることになりました。

(1) 手ぶくろを買いに。(新美南吉より)

上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

- 一、 線 はどんな様子を表していますか。  
 あてはまるものに丸を付けましょう。
- \*夕方から夜になっていく様子 ( )
  - \*真夜中の様子 ( )
  - \*夜から朝になっていく様子 ( )

「暗い暗い夜が森をつつみにやってきました。」というところは、まだつつんでいないということだから、まだ真夜中になつていないということになりますね。

二、この子ぎつねは、はじめて夜に外を歩いています。そのことが分かる文を探して、次の文を完成させましょう。

まんまるな目を **ぱちぱち**させながら、  
**あつちやこつち**を見ながら歩いて行きました。

はじめてのできごとを体験する時、あなたはどんな行動をしますか。子ぎつねも、はじめて見る夜の景色におどろいたり、興味をもったりしている様子が分かりますね。

三、 線 の「町の灯(ひ)」を見て、子ぎつねは何だと思いましたが。

**お星さま**

会話をよく読むと分かりますね。「あれは〜」と母さんぎつねが二回言っていますが、「あれ」が指すものが何か考えながら読むことも大切です。

四、 線 の「足が進まない」について、次の問いに答えましょう

(1) **足が進まない。**と同じ意味の言葉を文中からさがし、次の文を完成させましょう。

母さんぎつねの **足**は **すくんで**しまいました。

同じ意味をもった言葉ですね。「すくむ」という言葉は身がちぢんで動かないという意味で使われています。

(2) **なぜ、母さんぎつねは足が進まなくなつたのですか。**当てはまるものに丸を付けましょう。

- \*町の灯が星のようできれいだったから ( )
- \*こわかったことを思い出したから ( )
- \*子ぎつねだけで町に行かせたかったから ( )

「足が進まない」は、進もうと思っっているけども、体がいふことをきかない様子を表します。進もうと思っっている以上に行きたくない理由があるので進めないのですね。母さんぎつねにとつて行きたくない理由を読み取りましょう。

## 第一話 題名

最近、中村家に首輪のない野良猫が来るようになった。茶色と白の模様をもった野良猫。まあ、もちろん、リビングの軒下あたりにやってきては、えさをやっていたから、なついていたんだろ。しかし、野良猫は野良猫。絶対に近づかない。近づかないけど、朝と晩になると必ず中村家に来て、えさをねだる。ただ、そのとき彼は、何となく野良猫の境界線を越え、家猫の敷居をまたぐとしていくようにも感じた。

まだ、そのときには彼に名前を与えていなかった。はじめは、中村家の人々は、野良猫！と呼んでいたが、あることをきっかけに名前を与えることになった。



それは、ある朝のこと、中村家の人々が朝食を取っていると、えさをねだりに彼がやってきたのだ。しかし、仕事にでかけるべく急いでいた中村家の人々は、えさをあげなかった。すると、彼は自分の存在をアピールし始めた。まず第一弾は、猫の小技で有名な「猫パンチ」を窓にかますのだ。コツコツとかわいい音をするが、それでも中村家の人々は無視して食事をガツガツと食べている。すると彼は第二弾となる思わぬ行動に打って出てきた。中村家のリビングの窓は、下半分が磨りガラスで上半分が透明なガラスである。そして、その窓のすぐ外には、ちょうど磨りガラスと透明ガラスの境目までくらいの高さがある岩があつて、そのすぐそばにヒイラギが立っている。彼は、その岩を登り、さらにヒイラギにも登った。そして、彼はちょうどヒイラギの枝が二股に分かれているところにすっぽり収まるように横たわり、両方の前足の上にあごを載せるようにして、枝をゆするのだ。ヒイラギがゆつさゆつさとゆれる。朝食を食べていた中村家の人は目を疑った。もう、まるで、だだをこねている子どものように、ゆつさゆつさと枝をゆする彼。中村家の人々は、思わず吹き出してしまい、しようがないとばかりに母親が魚を与えた。その行動は、中村家の人々がえさをやらないときには、必ずしていた。

「何か、飼いだないけど、飼いだね。名前は・野良猫だから、ノラちゃんだな。」

誰が言ったというわけではないが、そうなってしまった。野良猫のノラ。決して家には上がらないし、あげない。野良猫は野良猫なのだ。でも、ノラなのだ。彼のベッドは、庭のプランターである。

上の文章を読んで問いに答えましょう。

一 「ノラ」の姿や様子を一段落の中から読み取り、次の□に合う言葉を書きましよう。

□  
のない野良猫

□  
の模様をもった野良猫

・絶対に□が、朝と晩になると必ずやってきて□。

二 □だだをこねている子どもとはノラのような姿を言っていますか。当てはまるものに丸を付けましよう。

( ) 「猫パンチ」をかます姿

( ) 枝をゆする姿

( ) 魚を食べる姿

三 飼いだないけど、飼いだね。と考えたのはなぜですか。次の条件に合わせ書きましよう。

【条件】飼いだないといえる様子と飼いだといえる様子を、ノラの行動から整理して書くこと


四 □題名□に当てはまると思つものに丸を付けましよう。

( ) 野良猫ノラ登場

( ) ノラの必殺技「猫パンチ」

( ) 中村家の人々

最近、中村家に首輪のない野良猫が来るようになった。茶色と白の模様をもった野良猫、まあ、もちろん、リビングの軒下あたりをやつてきては、えさをやっていたから、なついていたんだろ。しかし、野良猫は野良猫、絶対に近づかない。近づかないけど、朝と晩になると必ず中村家に来て、えさをねだる。き彼は、何となく野良猫の境界線を越え、家猫の敷居をまたぐとしてるようにも感じた。



まだ、そのときには彼に名前を与えていなかった。はじめは、中村家の人々は、野良猫！と呼んでいたが、あることをきっかけに名前を与えることになった。それは、ある朝のこと、中村家の人々が朝食を取っていると、えさをねだりに彼がやつてきたのだ。しかし、仕事にでかけるべく急いでいた中村家の人々は、えさをあげなかった。すると、彼は自分の存在をアピールし始めた。まず第一弾は、猫の小技で有名な「猫パンチ」を窓にかますのだ。コツコツとかわいい音をするが、それでも中村家の人々は無視して食事をガツガツと食べている。すると彼は第二弾となる思わぬ行動に打って出てきた。中村家のリビングの窓は、下半分が磨りガラスで上半分が透明なガラスである。そして、その窓のすぐ外には、ちょうど磨りガラスと透明ガラスの境目までぐらいの高さがある岩があった。そのすぐそばにヒイラギが立っている。彼は、その岩を登り、ギにも登った。そして、彼はちょうどヒイラギの枝が二股に分かれているところにすっぽり収まるように横たわり、両方の前足の上にあごを載せるようにして、枝をゆするのだ。ヒイラギがゆつさゆつさとゆれる。朝食を食べていた中村家の人は目を疑った。もう、まるで「だだをこねている子ども」のようだった。ゆつゆつと枝をゆする彼。中村家の人々は、思わず吹き出してしまい、しょうがないとばかりに母親が魚を与えた。その行動は、中村家の人々がえさをやらないときには、必ずしていた。

「何か、飼いだね、飼いだね、飼いだね。名前は、野良猫だから、ノラちゃんだな。」

誰かが言ったというわけではないが、そうなってしまう。野良猫のノラ。決して家には上がらないし、あげない。野良猫は野良猫なのだ。でも、ノラなのだ。彼のベッドは、庭のプランターである。

登場人物については、その姿やとくちょう、性格などが必ず書かれています。文章の初めには、登場人物や場面設定が書かれていることがほとんどです。1段落では、ノラがどんな猫なのかが書かれていますね。

上の文章を読んで問いに答えましょう。

「ノラ」の姿や様子を一段落の中から読み取り、次の[ ]に合う言葉を書きましよう。

首輪のない野良猫

茶色と白の模様のもった野良猫

絶対に近づかないが、朝と晩になると必ずやってくる

えさをねだる

だだをこねている子どもとはノラのような姿を言っていますか。当てはまるものに丸をつけましょう。

( ) 「猫パンチ」をかます姿

( ) 枝をゆする姿

( ) 魚を食べる姿

飼いだね、飼いだね、飼いだね。と考えたのはなぜですか。次の条件に合わせて書きましよう。

【条件】飼いだねといえる様子と飼いだねといえる様子を、ノラの行動から整理して書くこと

(例) ノラは野良猫のように家にとがったり、人に近づいたりしないが、時間になると飼いだねのようになえさをもらおうとするか。

\* 飼いだねの部分と飼いだねではない部分をノラの姿から書いていれよ。

題名は、その文章で作者が一番言いたいこと・伝えたいことを、短い言葉や文にしたものです。この文章全体では野良猫から飼いだねとして認められたノラのこと書かれていますね。

四 題名 [ ] に当てはまると思つものに丸をつけましよう。

( ) 野良猫ノラ登場

( ) ノラの必殺技「猫パンチ」

( ) 中村家の楽しみ